

1 調査実施の概要

① 調査内容

<調査目的等> 移住促進施策などへの活用を目的に、道外出身の札幌市Iターン移住者に対してアンケート調査を実施し、広く実態の把握を目指す。

<調査方法> インターネットアンケート調査(「インサーチ札幌」)による回収

<調査期間> 2024年1月26日(金)～2024年2月8日(木)

<調査対象> 札幌圏在住者を対象にスクリーニング調査(有効回答数N=3400)を実施、以下条件を全て満たす本調査対象者(N=200)を抽出、有効回答数N=151を得た。(回収率75.5%)

条件: ・札幌市居住経験のある道外出身者
・札幌市居住きっかけが「実家がある」「進学」「家業承継」いずれにも該当しないこと

② 回答者の属性

性別

・回答者の3人に2人が男性、半数近くが50歳代。大半が札幌市に現在も在住。
・降雪地居住経験を持たずに札幌市へIターン移住した回答者は70%にのぼる。
・札幌市Iターン移住の直前の居住地は札幌市以外の道内が最多、続いて東京、神奈川の順。道内と首都圏が主流だが全国から移住がある。

年代

・回答者の3人に2人が男性、半数近くが50歳代。大半が札幌市に現在も在住。
・降雪地居住経験を持たずに札幌市へIターン移住した回答者は70%にのぼる。
・札幌市Iターン移住の直前の居住地は札幌市以外の道内が最多、続いて東京、神奈川の順。道内と首都圏が主流だが全国から移住がある。

現居住地

・回答者の3人に2人が男性、半数近くが50歳代。大半が札幌市に現在も在住。
・降雪地居住経験を持たずに札幌市へIターン移住した回答者は70%にのぼる。
・札幌市Iターン移住の直前の居住地は札幌市以外の道内が最多、続いて東京、神奈川の順。道内と首都圏が主流だが全国から移住がある。

降雪地居住経験

・回答者の3人に2人が男性、半数近くが50歳代。大半が札幌市に現在も在住。
・降雪地居住経験を持たずに札幌市へIターン移住した回答者は70%にのぼる。
・札幌市Iターン移住の直前の居住地は札幌市以外の道内が最多、続いて東京、神奈川の順。道内と首都圏が主流だが全国から移住がある。

2 札幌市Iターン移住および移住検討状況の実態

① 移住の経緯

性別	自分の転職	自分の転職	自分の転職	自分の転職	移住・引っ越し	職業を変えずに	結婚	家族の転職	家族の転職	家族の転職	家族の転職	その他
全体	151	11.9	13.9	24.5	2.0	15.2	13.2	3.3	7.9	0.0	7.9	
男性	101	10.9	15.8	35.6	3.0	17.8	8.9	1.0	0.0	0.0	6.9	
女性	49	14.3	10.2	2.0	0.0	10.2	22.4	6.1	24.5	0.0	10.2	
20歳代	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
30歳代	22	31.8	0.0	4.5	0.0	13.6	27.3	0.0	4.5	0.0	18.2	
40歳代	45	4.4	22.2	22.2	0.0	11.1	20.0	2.2	11.1	0.0	6.7	
50歳代	81	9.9	13.6	30.9	3.7	18.5	4.9	4.9	7.4	0.0	6.2	

・「自分の転職」が最多、次いで「職業を変えずに移住・引っ越し」、「自分の転職」の順に多数を占める。
・「自分の転職」は男性比率が高い。
・「家族の転職」「結婚」は女性比率が高い。
・移住開始時就業率(N=119)に絞って分析すると、「自分の転職」29%、「職業を変えずに移住・引っ越し」19%、「自分の転職」17%、「自分の就職」14%、「結婚」9%、「家族の転職」13%、「家族の転職」2%、「自分の起業」2%、「その他」6%となる。

② 移住の時期

・2018年以降の移住者は合計22.5%。

③ 他都市検討状況

・大半が移住先として札幌市を単独で検討している。
・他都市候補は東京のほか、道内では石狩、千歳、小樽、富良野、旭川、帯広、稚内、釧路が挙げられた。

④ 札幌市検討理由

・札幌市に自然環境を求める人28%、住環境を求める人27%の順に多い。
・その他の内訳には「通勤のため」との意見が多かった。

⑤ 生活面で重視すること

・日常的な買い物や都市部へのアクセスなど、都市近郊型の利便性を求める人が60%以上を占める。

⑥ 職業面で重視すること

・「賃金」が最多、「業務内容」「勤務地の位置」がこれに続く。
・北海道さっぽろ圏移住フェア2024(2024/1/20実施、開催地:東京)来場者アンケートで同様の調査を実施。本調査と回答傾向が類似しており、上位3項目の順位が同様であり、回答率の差も10%以内に収まっていた。

⑦ 札幌市Iターン移住の推奨度

・「是非勧めたい」「やや勧めたい」の合計は46%、「あまり勧めたくない」「全く勧めたくない」の合計は10%。
・「どちらとも言えない」については「価値観やニーズは人それぞれだから」等の選択理由が多く挙げられた。

考察 1 属性調査、2 札幌市Iターン移住状況実態について

・自分の職業都合など、札幌市Iターン移住の計画に深くかわかる回答者から実態を収集する結果となった。

・多様な経緯や事情による移住実態結果が集まった。個々のサンプル数が小さいため統計的処理は困難だが、札幌市Iターン移住に限定した調査は過去に例がなくデータの新規性として有意義である。

・札幌市検討理由に自然環境および住環境を挙げる人が多かった一方で、生活面で重視することには都市近郊型の利便性を挙げる人が多かった。双方を併せ持つ移住地として札幌市が選ばれていると考えられる。なお、自由回答からは「北海道に移住したい」意見による移住者が一定数認められた。北海道に住むこと、一定以上の都市機能を備えた地方中核都市であることから札幌市が選ばれており、札幌市を単独で移住先に検討される傾向があったものと推測される。

・札幌市Iターン移住者の大半は、降雪地居住経験を持たなかった。詳しくは次項にて後述するが、降雪地居住経験「なし」の移住者たちは冬の備えや雪対策に関して情報収集に難儀していた。これらに関する情報提供が待たれており、札幌市ホームページ等から移住検討者たちへリーチできるものと考えられる。

・職業面については、北海道さっぽろ圏移住フェア2024来場者アンケートと類似の結果を示した。また、移住と同時に起業するのはごく少数だった。大半は就業先を保有もしくは就業の目的を立ててから移住している傾向にあるものと推測される。

・推奨度が高い水準であることから、札幌市Iターン移住者の札幌市への満足度は高い傾向にあると考えられる。

